

真名川ダム湖内での淡水赤潮について ～（第3報）～

5月26日午後3時頃、職員がダム湖周辺の巡視中に発見した淡水赤潮の種を同定しましたのでお知らせいたします。

九頭竜川ダム統合管理事務所が分析を依頼していた？北陸公衆衛生研究所の同定結果では、淡水赤潮の種は、「渦鞭毛藻のペリディニウム・ビペス」であることがわかりました。

本種は、春から夏にかけてよく見られるプランクトンで細胞は卵型、洋梨型又は球形で、大きさは、長さ28～40 μm 、幅25～37 μm で上殻と下殻の大きさは、ほぼ等しい。この種は比較的水温の低い時期に増殖しやすい種であり、雪解けの増水により流入した栄養塩類と日照量の増加により異常増殖が起こり、今回の淡水赤潮が発生されたものと推察されます。なお、ペリディニウム・ビペスには毒性がなく、人体に影響を及ぼすことはないとの同研究所の見解です。

BOD等の赤潮調査3地点（赤潮発生区域の2地点、発生区域の下流）での水質調査の結果は、BODでは9.2～1.6mg/L（ダムより上流500mでの、平成16年度の平均値では0.9mg/L）と高い数値を示しました。同様にクロロフィルaについても110～7.5mg/m³（ダムより上流500mでの、平成16年度の平均値では9.1mg/m³）と高い値を示しました。なお、今後プランクトンが減少すれば、これらの数値も定常時に戻ってくるものと予想されます。

昨日（6月1日）の巡視においても、まだ真名川ダムから上流7km付近に、淡水赤潮が見られますが、発生当時と比べると色は薄くなっています。